

無事に、大きな遅延も事故もなく、プンタデルエステに到着しました。写真は、パリ空港、アルゼンチン空港、そして、モンテビデオの空港。それと荷物のトラブルが一つあったので、それに対応する柏木さんの姿です。

●荷物1つ届かず

小さなトラブルは、柏木さんの荷物（唯一縦長に対応しているため、全ての展示用タペストリーを入れていた）が、ターンテーブルから出てきませんでした。

空港で預けた時の荷物タグ番号で、係りに頼んで、照合してもらった結果、荷物はシャルルドゴール（パリ）空港にあることがわかりました。

1日遅れて、届けてくれることになりましたが、残念なことに、エアフランスでは、ホテルまで荷物を届けるとなると、週明けになるという。

運良く、飛行機自体は、毎日就航の便だったので、24時間遅れて、ウルグアイまでは届くものの、我々の滞在するプンタデルエステの一つ手前の高速バスの停留所である「マルドナド」までしか届けられないという。仕方ないので、柏木さんが、隣町のバス停まで受け取りに行くことになりました。帰りは重たいので、タクシーで帰ってくることにしています

今、飛行機がウルグアイに着いた頃なので、そろそろ航空会社から電話がくる予定。

とにかく時差が半端ないので、少しだけ余裕をもって来て正解でした。しかし、時差ぼけはもともと、日本に住んでいてもありますが、南米は本当に遠いです

ね。体の調子がどうだか、自分でもわかりません。

●買い物と鳥

ホテルは安価なりゾートホテルのくせに、冷蔵庫にはふんだんに飲み物が詰まっています、これを飲むと、高い料金が請求されそうなので、昨日は、近くのスーパーへ歩いて行きました。イングレサというスペイン語圏で手広くやっているスーパーマーケットに行き、水やソフトドリンクを買ってきました。

外は風が涼しくて、やはり秋の風を感じます。コンラッドホテルの周りには、緑の植栽と、芝生、噴水などがあり、黒いトキが何かを紡いでいました。（後藤の携帯は電池切れで写真が撮れなかったので、呉地さんから写真をもらってください）

他にも、猛禽類みたいな鳥や、スズメみたいな鳥、カモメみたいな鳥、鳩みたいな鳥と、私にとっては、どれも普通と思うものも、どうやら、「普通」などというものはないらしく、すべて異なる種のように。

スーパーが入っていたショッピングモール（プンタ・ショッピング）は、本屋さんも入っていて、さっそく、柏木さんと呉地さんは、地元の鳥図鑑を購入していました。

今日は、箆って仕事の日ですが、だんだんと現地の様子をレポートできるようにします。まだ、会議の内容をレポートできないので、こんな四方山話で、とりあえず助走しておきます。



朝食はホテルの無料サービスがあるので、時間を合わせて、食べながら1日の予定を決めました。

柏木さんはエア・フランスの荷物の受け渡しの連絡を待ったり、地元のスペイン語の通訳の方と連絡・交渉をしたりと大奮闘。呉地さんは、発表の資料を部屋で粛々と作成、私は地球環境基金や、WWNのプレNGO会合の開催告知の対応に追われています。締め切りが迫っているものばかりで、焦っています。

昼ごはんは食べたいということで、一旦各自部屋で仕事をして、午後に再集合。現地の時間に合わせて少し遅めの時間設定をして、まずは下見をして回ることにしました。

●コンラッド 本会議場・サイドイベント・展示場の下見

まずは、会場のコンラッド・ホテルを下見しようとコンラッドの敷地内へ。流石に高級ホテルだけあって、エントランスからの海の眺めは最高でした。



カジノを通り抜けて、コンベンション会場へフライングで侵入。まだ、展示物や構造物の設置中でした。

高級カジノ・リゾート・ホテルだけあって、廊下に展示されている調度品やシャンデリア、階段の曲線の創りがゴージャス。



左：ウエルカム・ボードの前で記念撮影
右：コンベンション会場の外観



ブース会場も勝手に侵入し、場所を確認しました。すでにラムネットのロゴマークはちゃんと入っていて、とても良い場所を確保できたと思ったら、注文していた机ではない代物が置いてあった（また仕事が増えてしまった）。



●WWN 会場の下見

続いて、6月2日にWWNのプレNGO会議を開催するジャン・クレバス・パルケ・ホテルを下見に行きました。

まるで、シンデレラ城のような外観。内観もしかり。結婚式のレセプションを行ったりする会場のようなです。





●やっとなんち

最後にやっとなんち着いたプンタ・ショッピングモールで食事。すでに夕方になり、柏木さんはそのまま荷物を受け取りに隣町へ。呉地さんと後藤は、GPSナビを頼りにホテルに帰りました。

●今日見た鳥



ケリの種類らしい



わかりません



雀の類らしい

プンタ・デル・エステの物価は東京並みで高い。フードコートのセット料理でも軽く1000円以上するので、無料朝食は、とにかく一生懸命食べる。

締め切りが迫る仕事がいくつもあるため、とにかく部屋にこもって作業を続ける。

●夕方ランチ & 初！海岸の散歩

同じホテルに滞在するラムネットJ会員でもある山下博美さんと会い、昨夜はおしゃれなカフェで食事をしたと聞き、このところ連続2夜ショッピングモールで食事していた我々は、オサレ～（御洒落）なカフェに連れて行ってもらうべく、夕日の沈む海岸を歩いてご飯を目指した。

例のごとく、鳥やいろいろと関心があるので、なかなか前に進まない（写真参照）。中央分離帯で見たケリも、海岸ではなにやら足で砂の下の生き物を探っているみたいで、足で砂を探る様子が可愛かった（動画：<http://youtu.be/cyCywQZaSjw>）。

結局、昼飯兼夕飯にありつけたのは、夜7時を過ぎていた。

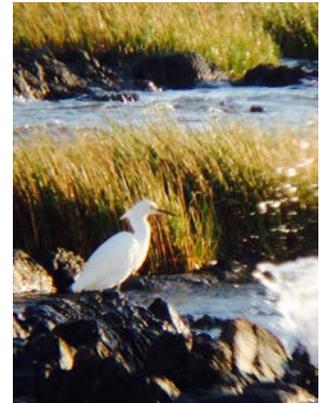
●明日から会議スタート

さて、明日は登録が始まるし、隣町のマルドナドのTODO COPY（ウルグアイのキンコーズ）に行き、出力やコピーをしなければならぬ。

展示場もタペストリーやポスターを持って設置に行かねばならないし、朝からフルダッシュだ。



塩水の中で生えている草



サギの仲間



眉毛の濃いやつ
（種はわかりません）



チドリの類？



夕日を眺める



なんの足跡？



マフツとしたカモメさん



どどん岩の上に集まってくる



左：打ち寄せられたカラス貝の殻が一面にある
右：弱って、陸に上がったようなペンギン発見



夕日が綺麗でした

とうとう RamsarCOP12 の初日がやってきた。2日にある WWN とのプレ COP・NGO ミーティングのフライヤーのコピー、展示会場の設営、地球環境基金への提出書類とやることが山積みの1日だった。

●市バスの乗り方

宿泊しているホテルではコピーサービスがないので、大量コピーのできる場所を聞いたところ、隣のマルドナド市役所の近くの TODO COPIA というキンコーズのような所を教えてもらった。市内循環バスの乗り方を教わり、いざ出発しようと思ったが、とにかく時間が惜しいので、バスターミナルから行こうと10分かけてターミナルに歩いて行くと、結局はターミナルからは隣のバスは無いとのこと。結局バス停でバスを待つことに。しかし、どういう訳かバスが来ない。貴重な朝の時間をバスを乗るといっただけのために50分もロスしてしまった。何とかマルドナドの町に辿り着いたのは昼前だった。ちなみに、バスは1回乗ると25\$ (ウルグアイ・ペソ) かかる。

●コピーサービス

市役所を挟んで北と南に2件コピーサービス店があるが北の方の店がお薦めよとホテルで聞き、店に向かった。USB メモリスティックにすべて PDF に変換して持参した。出力はインクジェットプリント (片面) のみ。コピーマシンはオリベッティ製で、紙詰まりがひどい。老いたジャンレノ似の店主が全ての機械操作を行う。プレ COP・NGO ミーティング用の両面チラシを50枚依頼したが、何度もローラーに詰まり、捨てた紙は15枚。お薦めされなかった南側の店にも行き、比べるためにいくつかのコピーを依頼したところ、こちらの方が若いスタッフと新しいマシンのようで少し良いようである。次は、こちらに行こう。



左：市役所の北側にあるホテルお薦めの todocopia (プンタ版コピーサービス)



右：市役所の南にあるもう一方の店。若者が運営していて少しだけ装備が新しい

●両替え所

2日の会議通訳者に通訳料を支払うために日本円を米ドルに換金する必要があった。街中にはあちこちに Cambio という両替所があるが、銀行の方が安心だと思いき、銀行に行ったがどこも日本円を扱わないとのこと。調べてもらったところ、プンタ・デル・エステの中にある GALES という両替所で換金できるということで、バスでプンタに戻り、町を歩き店を探した。無事に換金できたが、レート US\$=137円と悲しい結果だった。



日本円が換金できる両替所 GALES Cambio

●コンラッド展示ブースの設置

やっと午後になってからコンラッド会場に戻ることができた。カジノのある正面入り口から入るとスルスル〜とセキュリティ無しで、会場に入ってしまった。そして、展示場にも入れてしまった。セキュリティはユルユルの会場だ。それでも、登録名札が無いと心もとないので、入り口で登録を済まし、展示の設置に取り掛かった。会員の皆さんが協力してくれて、無事に数時間で展示を完成させることができた。

会議の後半から参加されることになっている (株) アレフのバナーも、丁度テーブルの前部分にピッタリでいい感じに仕上がった。



展示の手伝いに来てくれたみなさん

注文していたテーブルと異なるテーブルが置いてあった件については、謝罪なし。用意したテーブルがワンランク格下のテーブルだったので、その分の10ドルを値引きするだけだと提示するメールが来た。値引きはいいから注文した品物に交換してほしいと頼んだが、「もうその机は無いので無理です」という。

一ヶ月も前にカタログを見て、前金を支払ったのに当日現場での説明も謝罪もない。日本では考えられないけど、それもこれも多様性、世界は広い。



展示が完成！ 最大功労賞の織内さん

●夜～明け方

4時間遅れて無事にプンタ入りしたラムネットJ事務局長の浅野さん御一行と合流して夕食に出かけた。地球環境基金の修正書類の提出締め切りまであと7時間。作業する時間を考えると何時間眠れるのか？計算しつつ、時差ぼけの影響もあって、意志や根性ではもはや阻止できない寝落ち現象と作業との闘いが続く。明日は、プレ COP・NGO 会議だから、早めに会場に行かないと・・・。

朝早く起きて、プレ COP 会場に行く途中、いつも頭の上をキロキロ〜と甲高い声を立てて飛んでいく緑色のインコが芝生に集まっていた。芝生のスプリンクラーの水に集まっているようだった。



● NGO プレ COP 会議

プレ COP 会議は、6月2日の10:00～13:30まで、ジャン・クレバス・パルケ・ホテルのロブル・ルームで開催された。今回の会議では、NGO ルームが用意されなかったため、ラムサール・ネットワーク日本が助成金を得て会場と設備費用を申し出た形で実現することができた。



ご案内が直前だったことに加え、Google Map のバグにより誤った会場場所マップを示したものを配信してしまったため、20名くらい来ればいただろうと思っていたところ、蓋を開けてみたら55名もの参加を得て、大盛況であった。

南米、アジア、ヨーロッパ、オセアニアからの全参加者が自己紹介した。毎年会議に参加している先輩 NGO から新米 NGO に対して COP での効率的な参加方法についての助言が話された。その後、キーパーソンからの発表が続いた。ラムサール・ネットワーク日本からは呉地さんが田んぼの生物多様性向上について発表した。



途中、条約事務局の CEPA 担当者のカメラアさんが駆けつけてきてくれた。美しい容姿とは裏腹に、タフで男前な方です。



条約事務局 CEPA
担当のカメラアさん

後半は、グループに分かれて、決議案のレビュー、地域 NGO ステートメントの原稿策定と確認が行われた。事前勉強をしていた柏木さんは、WWN のルイーザ・ダフさんらと原稿策定作業に参加し、文章を校正した。



ステートメント文を修正するワークショップ

短い時間でまとめきることはできなかったため、時間切れによりルイーザさんが最後の仕事をまとめてメールを送り、最終的な承認を得ることで進め方が決まった。



最後に集合写真を撮って会は終了した。

●開会式と歓迎祝辞

本会議の式典はプレナリー会場で4時過ぎから行われた。地元の市長や要人の祝辞が、ことごとくスペイン語で、どこの国でも同じだがそのような偉い方のお話というのは、不思議と心地よい子守唄に聞こえてしまう。夢の世界へ引き込まれていきそうになるのを堪えるのが精一杯の1時間半だった。

式典は6時に終了したが、パーティは7時からというので、一旦ホテルに戻った。7時に会場に戻り、とりあえずブースに行こうとしたところ、NGOはパーティ会場には入れませんとお姉さんが展示会場の入り口から通してくれなかった。NGOのID名札は黄色をしており、国の代表者は赤色をしていたので、イエローカード・グループで美味しいシーフードを食べに出かけた。



開会式の様子

●パーティ潜入組

さっさと諦めた組の他に、頑張ってパーティに潜入したツワモノがいたことが翌日に判明した。名札を裏返しにしてシレッと通り抜けたら大丈夫だったと…。大きなパエリア、たくさんのお酒が振る舞われたとのことだった。

飲みすぎて、初めてタクシーを使って帰ったと報告を受けた。(笑)



焼いた地元の魚料理

● NGO ミーティング

今日から、毎朝9時から9時45分は、NGO ミーティングを定例で行うことにしていたが、今回 NGO ルームが与えられなかったために場所をどこか探さなくてはならなかった。コンラッド・ホテルから道を挟んで海岸沿いに建っている海の家を MedWet が部屋を借りて展示やセミナーを開催しているので、その横のミーティング場所を借りて行うことにした。

初日は、人数が少なく日本と韓国メンバーくらいしか集まらなかった。あまり、会議らしいことはできず、相互の情報交換で終わってしまった。

● NGO からのステートメント

前日のプレ NGO 会議で、NGO の皆で練って作成したステートメントが、開会式で地元の NGO アグアラ・ポペのバージニア・ジェレさんから発表された。

もっと NGO との関わりをしっかりと認識してほしいといった要望を述べた。



NGO ステートメントの発表

● プレナリーセッション

始めに会議の進め方について、アジェンダの確認やルールの確認などが行われた。今回は、オブザーバー参加者の全員の名前と国名を条約事務局長が読み上げた。膨大な数の異国人の名前を聞きながら、ウルグアイと日本からの参加者が多いと感じた。



プレナリー会場の出口で、アワード呼び込みペンギンさんと

● サイドイベント

サイドイベントは、本会場から廊下を進んで、少し

離れたところにまとまっている6部屋の会議室で行われている。効率的に情報を収集するために、呉地さん、柏木さん、後藤の3名であらかじめ、参加するサイドイベントを決めておいて、分散して聞くことにした。分担としては、田んぼ系は呉地さん、渡り鳥系は柏木さん、二人が行けないけど聞いてきて欲しいサイドイベントに後藤が入り、特に無い場合には、好きなサイドイベントに参加することにした。

この日は、日本政府（環境省）が、2015年に新たにラムサール条約湿地に指定された4箇所の首長をはじめ関係者を集めて祝賀サイドイベントが行われた。



日本の新規登録4自治体への登録証授与

● ラムサール・アワード表彰式

ラムサール条約湿地の賢明な利用と保全に大きく貢献した個人、組織、政府に与えられるもので、1999年より会議の都度実施している。今回スポンサーは、ダノン・エビアンで、ダノングループの水基金から受賞者には米ドル1万ドルが与えられる。今年は、賢明な利用部門（1名）、イノベーション部門（1名）、そして若者部門（1名）の他に、湿地コミュニティにおける目覚ましい貢献を果たした者（3名）にも賞を設定した。

会場はOVO（オーブイオー）カジノの奥にある派手な電飾とミラーボールがまばゆいバーで行われた。

表彰式の前に有名な風景写真家のチャーリー・ウエイト氏が、非常に面白おかしく、自分の写真を撮るときのスタイルを語り、写真を何点か紹介した。



アワード会場



写真家チャーリー・ウエイトさん

2015年のアワードは、順番に大型のモニターで大音響の効果音とともに、受賞者それぞれの地元での功績を短いビデオクリップにまとめて紹介した後、表彰台に本人を招いて表彰状を渡すという形式で行われた。



左：Oceanium（団体：セネガル）



右：Fundación Humedales Bogotá（団体：コロンビア）



左：William Mitsch（米国）



右：Tour du Valat（団体：フランス）



Gea Jae Joo（韓国）

表彰式が終わった後、80年代ディスコのような会場で、レセプションが行われた。

オンとオフを弁えたブリッグス事務局長は、あえて急にはしゃいで、お茶目な部分を披露して、参加者を盛り上げるなど、エンタテインもしてくれた。

●ジャパン・ナイト

海外での会議が行われる時の方が、湿地保全に関わる日本人が一同に会する機会があるということで、毎回、ラムサール条約会議の開催時に日本人が集まって会食をすることが恒例となっているという。WIJが音頭をとりジャパン・ナイトがサンセット・ビーチホテルの食堂で行われた。

【ラムサール・アワード受賞者】

賢明な利用部門

Ms Giselle Hazzan（イスラエル）

イノベーション部門

Oceanium（団体：セネガル）

若者部門

Fundación Humedales Bogotá（コロンビア）

湿地コミュニティにおける目覚ましい貢献を果たした者

William Mitsch（アメリカ）

Gea Jae Joo（韓国）

Tour du Valat（団体：フランス）

●朝の NGO ミーティング

MedWet は、道を挟んで海岸沿いに建つので、なかなか人が集まらなかった。

この日も日本人と韓国人、早起きのイギリス人がメールを見てやってきた。WWF のデルフィニさんも来てくれた。

そこで、3日目より会場を変更し、皆がアクセスしやすい、コンラッドホテルのレストランでミーティングをすることにした。

1日のスケジュールを確認し、NGO として COP で話し合う必要のある案件をチェックして、ロビー活動を行うための役割分担、情報共有を図るというものだ。

今回は、普及啓発と参加 (CEPA) と戦略計画 (Strategic Plan) の部分に重点をおいて、市民社会・NGO が重要な役割を果たしていること、協働を念頭にした書き振りとするよう働きかける方向性を確認した。

ラムネット J の柏木さん、WWN のルーズさん、そして WWF のダフネさんが中心になって、メンバーの全員とメールで情報共有しながら、限られた時間の中で決議案 (DR) のレビュー作業を進めている。



朝の NGO ミーティングの直後の立ち話

●プンタ浜辺散歩

朝の NGO 会議の後、浜辺を少し歩いたら、ペンギンの死骸が打ち寄せられていた。地元の人によると、この季節は魚が獲れなくて死んでしまうペンギンがプンタの浜に打ち上げられるのだという。(；；)

浅瀬でかろうじて泳いでいる子も明日には打ち上げられてしまう運命にある。

昔は地元の NGO が弱って流れ着いたペンギンを保護して元気にしてから海に戻す取り組みをしていたのだが、資金がなくなってしまい、現在は活動していないという。



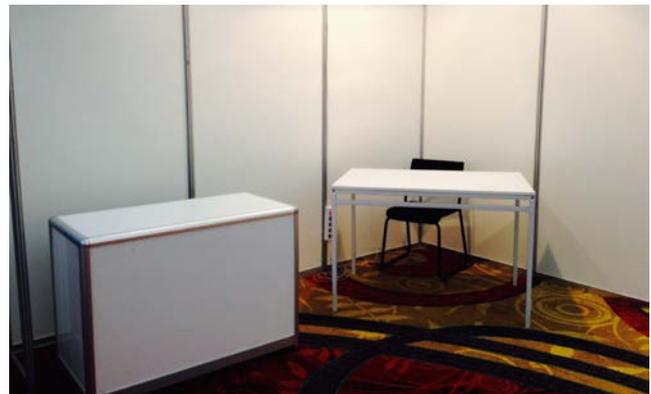
弱って岸に近づくペンギン 打ち上げられたペンギン

●会場設営請負会社との交渉

何から話そう・・・ずっと私の頭を悩ませていた展示場の設営会社との交渉がいよいよ最終決戦となった。木曜日の 11 時にモンテビデオから上司が、謝罪と集金に来るので、今度は間違いないと取り次いだお姉さんに言われた。そして、上司の人は、英語もできるのでクレームも伝えると良いという。

ところが 11 時に来ない。12 時、まだ来ない。1 時過ぎからのサイドイベントが終わって行くと、レストランにいるから来いという。爽やかな青いシャツを着た見た目好印象の事業家パンチョ氏だ。

とにかく握手を求められ、私が、御社の対応には非常に不満であると言ったところ、開口一番「No Problem!」と言い放った。いや～問題だらけだよ、謝罪の言葉は無かった。恐るべし異文化交流。



格下げされたテーブル

●マルドナドの街へ再び

バスの乗り方も覚え、午前中に行くはずだったチラシのコピーをしに 1 人マルドナドへ向かう。無事にコピーを終え、展示を改善するべくラシャ紙とマジックを買って帰ってきた。

ブースに戻り、文字だらけで見づらい展示の改善に取り掛かる。最終日までには、良い展示にしたいと思う。工作作業をしていると PRESS の名札を持ったフリーランスの報道カメラマンのミゲール・エンジェル・ルナさんがラムネット J のブースで写真を撮ってくれた。



● iisd の web サイト

iisd のラムサール会議の4日のハイライトの写真にラムネットJのブースが紹介されました！

<http://www.iisd.ca/ramsar/cop12/>

● 今日の動画

街から帰ってバス停からホテルに戻る途中で会った黒い小さいトキ。

<http://youtu.be/aN5Ffcmf16Y>



カメラマンのミゲールさんと

●朝の NGO ミーティング

5日の夜に IOP と WWN から1人だけが入ることができるコンタクトグループとのミーティングが行われることになった。決議案(DR)の戦略計画(Strategic Plan)の修正が必要な箇所について参加者全員で検討した。

検討した内容：

- 政府と CSO (Civil Society Organisation = 市民社会組織 = NGO および先住民や地域住民を含む) が、双方向にコミュニケーションが取れるようにする
- ラムサール条約の中で、NGO が関わるべきポイントは、施策の策定の部分ではなく、あくまでも実行 (Implementation) の部分である
- 実行するときのパートナーとして認めてもらうよう、実行することと書かれている項目の中で IOP がある部分には、続けて CSOs を付加してもらうようにする
- DR を見て、本文の部分修正することは、全体のバランスを崩すため、今回は別添の表 (ANNEX) の部分への修正とする

5日の午前中のうちに WWN のルーズがとりまとめて、夕方の5時までに最終化して、少し事前に先方の窓口に書類を提出し、夜のミーティングで交渉することになっている。

DR の CEPA では、CSO の重要性と関与については、十分になされていること、午前中のプレナリー・セッションでも承認されるので、無理に手出しせず、戦略計画の方に注力する方針とした。



朝の NGO ミーティングの様子

●展示の改善と児童の学習見学

展示が雑然としているので、工作して見やすい展示を追求すべく、派手なラシャ紙で大見出しを作成し、会員団体の展示をわかりやすく工夫した。

また、5日から (株)アレフがプンタ入りしたので、ふゆみず田んぼ de タンゴの動画をエンドレスで流すようになったこともあり、明るい雰囲気になった。

この日は、さながらエコプロダクツ展のごとく小学生や中学生が展示ブースに環境学習にきて、田んぼの生き物シールに飛びついていた。



小学生の環境学習

●日韓 NGO 湿地フォーラム打ち合わせ

今年の2月に行われた第10回日韓 NGO 湿地フォーラムの際、今後の活動方針についてウルグアイで検討しなোসということにしていた。宮本さん、ファンインチョルさんが6日に帰国するというので、5日の夜に日韓の食事会兼打ち合わせ会を設けた。日本側からは、運営会議で出た意見を韓国側に伝え、韓国側ではそれを持ち帰って検討し、返答をするということで、8月くらいまでには整理することになった。店からホテルに帰る途中、ポツポツと雨が頬にあたり始めた。



日韓夕食会の様子



日韓夕食・フォーラムの打ち合わせ会をした店

ずっと雨が降らなかったプンタデルエステにとうとう恵みの雨が降った。昨晩からポツポツときて、夜中にはザーザーと音がして、イナズマも光って、目が覚めたほどだ。昨晩、ふざけて雨乞いの踊りと歌を歌ったのが、功を奏したのかどうかはわからない。日本では疎まれる雨女も、乾燥地帯では歓迎される。

●朝の NGO ミーティング

昨日から始めた朝の定例ミーティングだが、今日は柏木さんが進行係を務めて会議が進行した。会議は、報告事項、協議事項、予告・告知に分けて、参加者からそれぞれ関連する発言を促す方法がとられた。

コンタクトポイントとの話し合いは、昨晩行われるはずだったのに、結局延期となり、まだできない状態のまま朝を迎えた。



朝の NGO ミーティングの様子

●展示の改善と人寄せの工夫

会員からのポスターの展示コーナーが、バラバラでよくわからないので、大きく「会員」タイトルをつけて、ポスターに番号を振った。各団体の活動場所も分かった方がよいということで、日本地図に符合する番号をつけて、併せて展示した。派手なオレンジ色の紙を使ったお陰で少し人が集まるようになった。

更に人に注目してもらおうと日本から持って行ったフェルトで、鳥を作って見せることにした。皆とても気に入ってくれたし、欲しがるのが、作業に時間がかかってしまうので、会議の合間に作るには少々しんどいものになってしまった。それでも、ウルグアイの地元の鳥を作って欲しいと依頼を受けるなど交流を生んだ。



フェルトで作成したヘラシギと、
依頼を受けたウルグアイの鳥

●コロンビアのデイネールさんとの打ち合わせ(6日)

今回のサイドイベントにコロンビアから参加してくれることになったデイネール・アポンテさんは、スペイン語しか話せないなので、お隣のブースで知り合ったコスタリカ JICA の小川さんに通訳をお願いして、コロンビアの米事情やサイドイベントでお願いしたいことなどを打ち合わせした。

コロンビアの農地の状況などを詳しく聞くなど、打ち合わせは夜の10時過ぎまで続いたが、サイドイベントの残り物の食べ物を集めて、食べながら打ち合わせをしたので、時間も食べ物も無駄なく使えた。

コロンビアでは、広大な土地をGPSを使って等高線に沿って畔を作り、水を張る方式のため、日本の田んぼのように細かく区切られていない。そのため、田んぼの大きさは地形の水平の大きさに比例するため、形も大きさもマチマチで、100ha～5000haのものまでであるという。

コロンビアの稲作のおよそ7割が雨水(天水)を使い、残り3割程度が灌漑用水を使っている。灌漑を使っているところでは二期作が可能となっている。

草原では年に2回ほど大きな氾濫が起きるので、その時に田植えをする。苗ではなく種を蒔く方法が採られている。6割は手で種を蒔き、4割はGPSを使って水平に機械で蒔く方法を使う。

ベネゼエラの工業地帯から国内法で禁止されているような強い農薬が簡単に手に入ってしまう。また、農薬の管理方法が徹底されていないため、空き容器を畑に放置、農薬の入っていた容器を洗って飲食用に使用するなど、ずさんな管理が問題となっている。

田んぼの生き物については、機械を導入するときと、野焼きをするときに、カメが死んでしまう他、渡り鳥が作物を食べるため、銃で撃ってしまうこともある。また、カピバラや牛などの侵入を防ぐために電流のフェンスで防御している。

コロンビアの農業は、地主と小作人とで方針を決めるが、先に紹介したような課題を解消するためにも、農業組合で田植え前に、環境配慮事項についてのアクション・プランを出してもらおうようにしている。今後は、環境配慮や農薬の取り扱いについてのルールを整備していきたいとのことである。



コロンビアのデイネールさんとの打ち合わせ

●エクスカージョン(7日)

エクスカージョンは、8つのコースの中から選択して参加した。朝のコンラッドコンベンション側のロビーは大にぎわい。朝7時半に集合がかかったものの、結局私たちのバスが出発したのは8時半を過ぎていた。



朝のロビー。自分のツアー番号が呼ばれるのを待つ

呉地さんは「米コース」に参加し、ロチャからラスカノという町を巡った。

柏木さんと後藤は、となり町のサンカルロスのマルドナド・ストリーム湿地の「エコパーク」を選択した。エコパークは車だと15分で到着してしまうので、プンタデルエステの半島の中をバスで観光をしてから現場へ向かった。



朝の半島観光。プンタデルエステのビーチにある手のオブジェ

地元のNGO「アグアラ・ポペ(アライグマの意)」のメンバーがガイドとなり、要所要所で、専門家の先生が解説をするという形で案内が展開された。下流域に広がるパンパスの大地を歩く前にそこで見られるおおよそ270種類の一覧表が渡され、それを鳥の専門家の先生と一緒に確認していった。湿地に面したところに一つ観察用の小屋が用意しており、水鳥を近くで観察することができた。



アグアラ・ポペのガイドさんと鳥の専門家の先生



エコパークに展示してあるパネルより（ダーウィン・ガエル）

鳥の観察の他、カニの巣穴がたくさんあるところでは、カニの研究者からカニの解説を受け、石器の発掘をしているフィールドでは、考古学の先生からの説明があった。



砂地に巣穴を作るカニ。写真は死んでいる個体



マルドナド・エコパークで発掘された石器

フィールドには、牛と馬が放牧されている。草原を歩くというのは足の踏み場に躊躇するほどの糞を避けながら歩くことで、慎重に足場を選んで歩いた。ところどころ窪地を濡れずに渡れるようにウッドデッキが整備されていてその木が全て新品だったので、ガイドに聞いたところ、エコパークとして人を案内するのは今回初めての試みだったと知った。



牛と馬の落し物に注意しながらパンパスを歩く

ランチは地元の小さなレストランを貸し切り、肉や野菜をサイコロ状に切ったものを爪楊枝で刺して食べるというワイルドなものだった。

午後は市民動物園を訪れた。地元の動物のみを集めた動物園とする構想だが、現段階ではニホンザルや、エミューといった地元の生き物でない動物も陳列されていた。念願のカピバラが間近に見られたので非常に嬉しかった。

夕日が長い影を落とし始めた時間帯に、今度は上流域で植物の専門家とフィールドを歩いた。元来パンパスには低い植物しかなかったが、入植と共にフランスから松、オーストラリアからユーカリが導入されるとあっという間に拡がり、今では高い木が当たり前風景に入り込んでいる。



上流の川の様子

背丈は低いが、鳥や草食動物に食べられないよう、葉や茎に棘のある植物ほど実は鳥も人も好む美味しいものが多いようで、植物の生き残り戦略を感じた。残念ながら、季節は秋なので、どの植物についても棘の

部分しか見ることができなかった。逆に秋だから見られた面白い植物は、葉に虫が卵を産むとそれを植物の組織が包み込むように守って冬を越すという変な共生植物で、ブツブツのニキビのようなものが付いている不思議な植物だった。



虫が卵を産むと植物がそれを囲んで保護してくれるという不思議な植物

夜は開拓時代からの歴史を記した館で、乳製品、肉、酒と踊りの山盛りパーティが開かれた。ツアーを終えた組が順番に集まり、最後は全員で盛り上がった。

バスでコンラッドに戻れたのは夜の10時を過ぎていた。



夜の宴で踊り狂う人々

さて、明日はとうとう本番のサイドイベントだ。

●朝の NGO ミーティング

マルドナドの街へ行かなければならなかったのに、朝の NGO ミーティングには参加できなかったが、最終日のクロージング・ステートメントの発表に向けて、NGO から発表する文章の作成と意見集約・修正作業が行われた。

柏木さんは、忙しい中でも丁寧にステートメント文を読み、若い NGO スタッフが作文した代表団（政府）に対しての要望について、強い語気で表現された部分に修正を加えるようコメントを出した。

●マルドナドで、大量のコピーサービス

サイドイベントのプログラムの内容がやっとフィックスできたので、プログラムを印刷するために再び街のコピーサービス屋さんに向かう。日本のキンコーズのセルフコピーで使っているのと同じコニカミノルタのマシンだが、折りも中綴じホチキスも無いので、ページ割りを冊子にしてもらって、あとはひたすら 60 部を手で半分に分けた。

ずいぶん白い紙なので、気になって山に積み上げている紙ストックを見たら、意外にも環境配慮コピー用紙であることがわかった。

もう来ることもないだろうと、マルドナドのバス停を名残惜しい気持ちで写真を撮った。帰りのバスを降りるところで、獣医さんの前に茶トラ猫が三つ指ついて待っていた。この子は触れるようで、自分からこちらに寄ってきたので飽きるまで撫でてやった。（いや、撫でさせてもらった）良いことがありそうだ。



左：真っ白い紙だが、森林認証を得ているらしい
右：お世話になったマルドナドのバス停



左：バスターミナルには自転車やバイクが綺麗に並べて置いてある。整理するおじさんが待機している
右：プンタデルエステのバス停近くの獣医前で看板猫発見！

●サイドイベント本番

6月2日の NGO プレ COP ミーティング同様に、フェデリコさんに同時通訳ブースに入ってもらって、スペイン語の同時通訳をお願いした。

プレナリーセッションが押していたため、予定通りの時刻に開始することはできず、15分遅れでスタートした。待ち時間の間、株式会社アレフのふゆみずタンゴの動画を流して、参加者にも音楽と踊りを事前学習していただいた。



左：サイドイベントの入り口の案内
右：入り口で同時通訳のヘッドセットの貸し出し



左：用意した資料の配布
右：開始前にふゆみずタンゴを流して雰囲気作りと練習

環境省が用意してくれたケータリングは、今までのどのサイドイベントにもなかったオシャレなカナッペやスイーツのプレートが並び、参加者にとって待ち時間は全く苦にならないどころか、何度もお代わりを取りに行ってもバンズのサンドイッチが少し残っただけだった。



バンズのサンドイッチ類 美味しそうなスイーツ

環境省の小川審議官は残念ながら午前中のうちに帰国しなければならなかったのに、冒頭のあいさつは柏

木さんが代読する形にした。続いて、ラムネットJの呉地さんが田んぼ10年プロジェクトを紹介。環境省の辻田さんからは環境省の生物多様性向上政策、農林水産省の高田さんからは水田における生物多様性向上政策を発表してもらった。また、韓国環境省キム・テスンさんからは韓国における水田に関連した政策と状況を発表していただいた。株式会社アレフの橋部さんには企業における取り組みを紹介していただいた。



呉地さんの発表



環境省の辻田さんの発表



農水省の高田さんの発表



韓国環境省のキム・テスンさんの発表



(株)アレフの橋部さんの発表

続いて、アフリカの状況は、ウガンダの農業・動物・水産省のロナルド・カトーさんより水田決議の取り組みを紹介していただいた。南米の状況は、コロンビアの湿地と稲作の課題をコンサルタントのデイネール・アポンテさんより発表していただいた。



コロンビアのデイネール・アポンテさんの発表



ウガンダのロナルド・カトーさんの発表

7名もの発表者を一つのサイドイベントに詰め込んだため、発表だけで時間がいっぱいになってしまった。

この一週間の間、ブース展示を訪れる人たちにフライヤーを配り、踊るから見に来てね〜と宣伝してきたので、時間が無いとはいえ踊らないというわけにもいかず、2回ほど連続してふゆみずタンゴを会場の参加者と共に踊った。

●ホテルでささやかな打ち上げ

何個か残ったバンズのサンドイッチを織内さんが袋に詰めてもってきてくれたので、それを肴に、先に帰国した方が呉地さんに残っていたウイスキーで、少人数のささやかな飲み会をサンセット・ビーチホテルの食堂で行った。

緊張がほぐれたのか、それまで一人で行動することが多かったコロンビアから来ていたデイネールさんも、言葉が分からないなりに、一緒にウイスキーを飲んで、自分の国の写真をスマートフォンで見せて楽しんでいた。



左：今日の鳥さん 1

動画 <http://youtu.be/OdqUBJXGX2Q>

右：今日の鳥さん 2

動画 <http://youtu.be/iPqusSHqyW8>

●朝の NGO ミーティング

この日の朝のミーティングは、プレナリーが9時から開始されるというので、8時に開始するというメールが流れたが、いつもミーティングをする食堂は空いていないし、WWNのメンバーをどこにも誰も見つけることができず、結局早起きしただけになってしまった。

●USBの忘れ物を取りに街へ再び

サイドイベントのプログラムの折り作業に夢中になってしまって、コンピュータに差し込んだUSBメモリを忘れてしまったので、再び隣り街のコピー屋さんへ行かなければならなかった。何度もコピーで通って、顔を覚えてもらっていたので、忘れものの受け渡しは直ぐに終わった。本当にお世話になりました。

●プレナリー閉会

プレナリーセッションをフォローすることは、ほとんどできなかったが、代表団および条約事務局の過酷な作業は容易に察しがついた。決議案(DR)を正面スクリーンに投影しながら、少しずつ画面を送りながら読み確認していく作業には、参加者全員が疲労の色を隠せず、最後のDRの確認が終わり、新しい戦略計画も承認されて全ての工程が終了すると、皆の安堵で空気が軽くなった。

●クロージング・ステートメント

最後まで検討して作成したNGOからのクロージング・ステートメントは、南アメリカを代表して、ブラジルのラファエラ・ニコラさんが発表した。

●ブラジルのラファエラさんとの打ち合わせ

会議が終了した後、撤収し終わった後のブースでブラジルのラファエラさん、アウリアさんと水田決議の取り組み拡大についての打ち合わせをした。



ブラジルの稲作農業は多国籍企業による大規模な工業化が進んでおり、そこに農家さん(人)影を見ることはできないという。土地オーナーが強大な力を持ち、違法な灌漑用水の引き込みによって川の水位が下がり、違法な農薬の使用も賄賂を支払って見逃してもら

うといった癒着がはびこっている。こうした持続不可能な大規模な農業に対して、現場で責任をとる人は見えてこない。調べようにも、空から機械が行き来するだけで、手がかりも見えてこない。

一方、小規模で高価格なグルメ市場向けに、粒が小さくて黒い昔からこの土地で育ててきた品種の米を有機栽培する農家がブラジルの南部の方(ボリビアとの国境近く Banhados do Tain)にある。こうした古代有機米(Endemic Rice)は、現在は都市部の金持ち層向けの店でしか入手することができない。

もし、水田決議の実現のためにモデル的なケースを考えるのであれば、唯一農家の顔が見える、この南部の農家から着手するのがよいと考えている。

ここで柏木さんが韓国の例を紹介して、有機米の生産者と生協とが連携して、生産者と消費者を結びつけることで、安全安心な米の供給と農家の収入安定のwin-winを推進した韓国での事例を紹介した。

ブラジルでも、お米の委員会(Council)が組織されており、そこでは民主的な方法によって灌漑用水の管理運営などを行っている。そこに相談してみることから始めるのがよいかもしれない。日本のように何百年も前から水田が存在していた訳ではないので、今のブラジルでは、そもそも水田耕作をすること自体が環境破壊と生物多様性を損なう原因であるということを知ってほしい。

●夜のカクテルパーティ

最終日の夜は、全員が参加できるカクテルパーティが開催された。一仕事を終えた達成感で条約事務局のみなさんもおおいにはしゃいで踊った。プロフェッショナルなタンゴダンサーも現れて、見事なタンゴを披露した。



左：夜のカクテルパーティで出されたケーキ
右：プロのダンサーによるタンゴ

●ラムサール COP12 の総参加数

6月9日の正午の時点で、織内さんが事務局に問い合わせたところ、参加国141カ国、デレゲーション342名、参加人数873名ということだった。

プンタ・レポートはこれで終わりです。